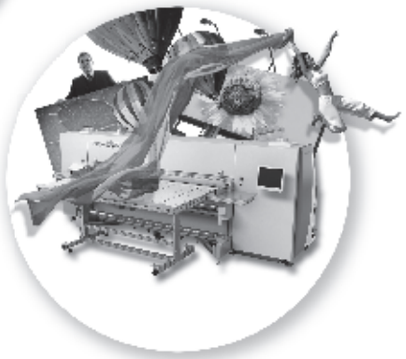
SCREEN

The Value Creation in Media Mix
“EQUIOSNET”

Commercial(CTP)

Document

Commercial(POD)



Wideformat

GREEN value21

大日本スクリーンは、ゆるぎない地位を確立したCTPワークフローに、独創のインクジェット技術を駆使したPODソリューションで「パーソナライゼーション」のエッセンスを融合した、新たな印刷ビジネスのソリューション「EQUIOSNET」コンセプトを全世界に提唱し、環境の世紀にふさわしい印刷ビジネスを提案してまいります。

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン http://www.mtjn.co.jp/
VP営業統轄部 ／ 〒135-0044 東京都江東区越中島1丁目1~1 ヤマタネ深川1号館1F
TEL： 03-5621-8188（代）

大日本スクリーン製造株式会社 http://www.screen.co.jp/
メディア＆プレシジョンテクノロジーカンパニー

Creating a Future in Print

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C009249

VEGETABLE OIL INK

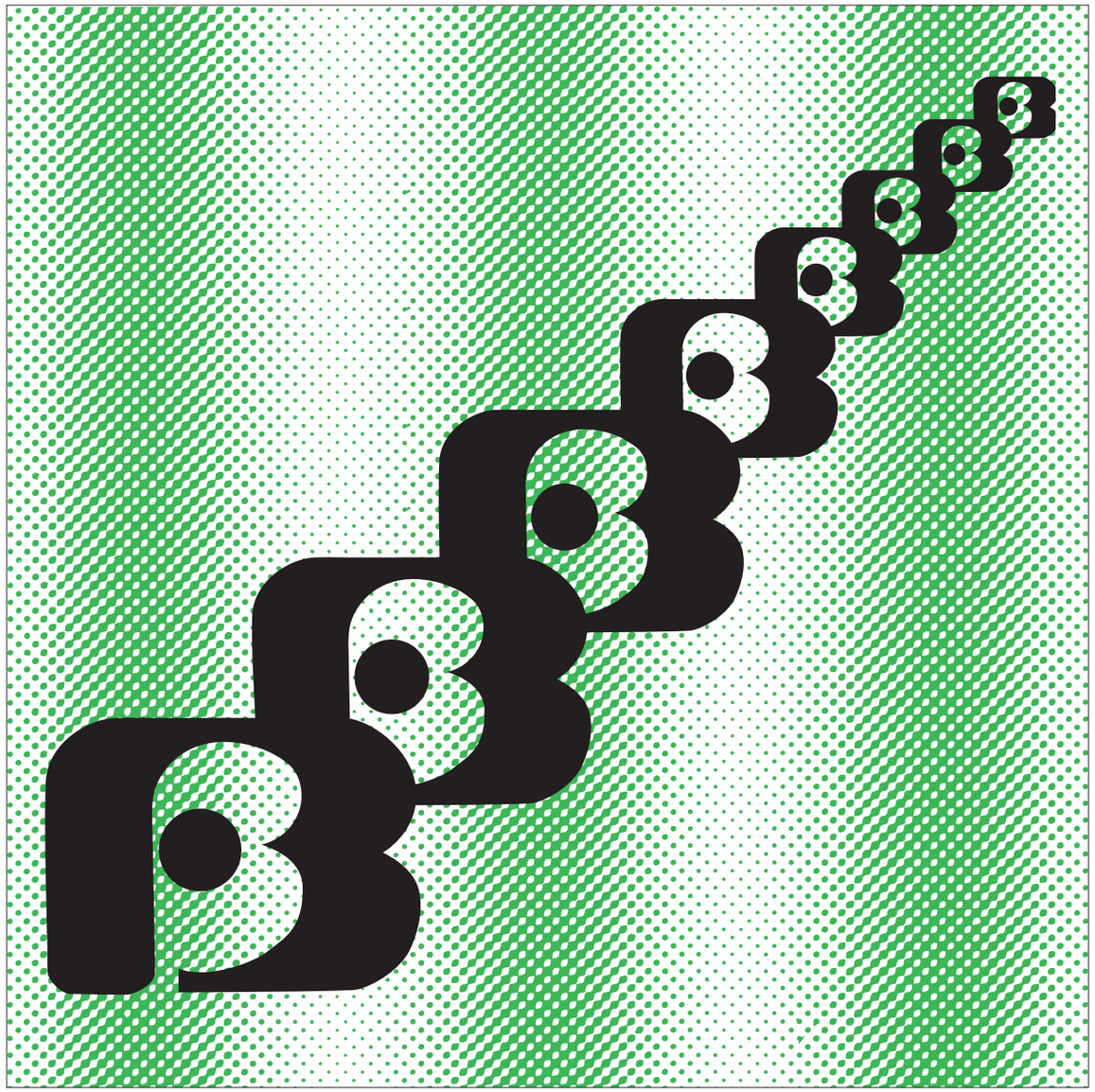
フォーム印刷

JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ http://www.jbfa.jp

NO. 371



2012 .4

印刷技術の未来を担うパイオニア

MJP20W

LED-UV 対応
フルカラーインクジェットプリンター
・解　像　度 600dpi×600dpi
・印 字 速 度 150m/min
・最大印字幅 541mm

MJP20F

フルカラーインクジェットプリンター
・最高解像度 600dpi×600dpi
・印 字 速 度 200m/min
・最大印字幅 541mm

★ その他、アドオンタイプ・捺染用 等を多数ラインナップ ★

お客様の喜び・満足を創造する
株式会社ミヤコシ
〒275-0016　千葉県習志野市津田沼 1-13-5
TEL:047-493-3854　　FAX : 047-493-3071
ＵＲＬ: http://www.miyakoshi.co.jp

KOBUNDO

シール・ラベル用全自動検査装置
KBDチェックマスターSL
チェックマスター　シリーズ

全ての不良を検知する、全自動検査装置。

ビジネスフォーム用
全自動検査装置
KBDチェックマスターBF

廉価版！自動検査装置
KBDチェックマスターライト

特 長
●独自の検査アルゴリズムを使用
●簡単操作
●様々な印刷物にも検知対応
●プリントフロー（検査結果と履歴の保存機能）

インキ練りローラー自動洗浄装置
KBDローラークリーンシステム
インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、
資源の節約を極める

印刷機の稼働率を
大幅アップ

インキカラーコントロールシステム
KBDマイクロカラーマーキュリー
シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で
使いやすくなって、
新機能も追加！
インキカラーコントロールが
グッと身近に。

新登場！！

印刷機材の総合商社
株式会社光文堂
本店／〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号　TEL 052（331）4111（代）
支社／東京　支店／東北・静岡・大阪・北九州・福岡　営業所／北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄
http://www.kobundo.co.jp

フォーム印刷

日本フォーム印刷工業連合会会報　2012. 4　No. 371

目　次

日本フォーム工連　平成23年度第８回理事会議事要録 …… 2

日本フォーム工連　平成23年度第９回理事会議事要録 …… 4

トピックス …… 6
- 平成24年新春講演会「芸術は人の心を癒す」を開催
- 日本印刷技術協会主催「page 2012」に出展
- 関西フォーム印刷工業会主催 放談会「これからのＢＦを考える」を開催
- 技術セミナー「印刷産業におけるクラウド化の影響について」を開催

工業会だより …… 9
- 関東フォーム印刷工業会　平成24年新春懇親会を開催
- 関西フォーム印刷工業会　平成24年新春互例会を開催
- 東北フォーム印刷工業会　平成24年新春懇親会・講演会を開催
- 九州フォーム印刷工業会　平成23年度２月理事会及び懇親会を開催

INFORMATION …… 11
- 国際委員会　北米印刷事情レポート（2012年1月～ 3月）
- 「ゆうちょ銀行専用振込用紙」作成に関するお願い
- 「JP 2012情報・印刷産業展」に関西フォーム印刷工業会と企画参加各社が共同出展

TOYOINK

東洋インキ株式会社
ECS事業統括部
〒104-8378 東京都中央区京橋2-3-13
Tel : 03-3272-7693
www.toyoink.jp

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ
FDフォームXシリーズ

- **高い硬化性**　UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- **広い水幅**　水を上げても良好な印刷適正を実現。
- **優れた転移性**　着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- 紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液
FCリスコート　H-17　BFシリーズ

特徴	☆UV･油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御 ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい ☆耐水性の低い染料系インキ･減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制

冨士薬品工業株式会社
FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD
HP　URL　http://www.fcfuji.co.jp

本　社　〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10
TEL 03-3557-6201　FAX 03-3557-6205
大阪営業所　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1
TEL 06-6384-1351　FAX 06-6389-3221

日本フォーム印刷工業連合会　平成23年度　第８回理事会議事録

■平成24年１月26日（木）午後２時15分　目白・椿山荘「カシオペア」
■出席者（23名）
小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷（正）常任理事、中村常任理事、丹羽常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、越智（大久保常任理事）代理、福田常任理事、佐藤常任理事、佐久間常任理事、杉山常任理事、清水常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、溝口理事、西川監事、吉澤監事、山口（専務理事事務局）

議　題（１）委員会報告
（２）日本印刷産業連合会等関連報告
（３）各フォーム印刷工業会からの報告

議　事　冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

「小谷会長挨拶骨子」

あけましておめでとうございます。

昨年は地震で佐久間会長の東北を中心に大変ご苦労されましたが、東北以外でも紙だ、電気だ、と苦労が多い年でした。是非、今年は明るい年にしたいと思っている。昨年多くの問題が起こったので、改善や工夫も大きく進んで、良くなる方向へ動いて行く期待をもって新年を迎えた。

今年は辰年で登り龍と言われていますが、登り龍は足が地についていないのであまり良くない。

私も天高く雲を登る様な登り龍にはなれないので、地に足を付けて、上を向いて今年は目指して行きたい。

是非とも皆さんとともに上を向いて前向きにドンドンやって行きたい。

委員会報告

●資材委員会
・12月・１月度用紙事情について報告

●業務委員会
・11月・12月度月次計算について
・Page 2012出展準備について

●国際委員会
・11月度米国レポートの報告
・drupa 2012ツアー企画について

●市場調査委員会
・平成23年度市場調査報告書発行案内

●環境委員会
・2011年夏季節電についての取組みまとめ

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

（１）月刊カーボンフットプリント
（２）「カーボンフットプリント制度」のご案内
（３）グリーンプリンティング認定工場
（４）平成24年経済センサス－活動調査への協力について
（５）日本印刷新聞（2012年１月１日号）
（６）印刷タイムス（2012年１月10日号）

各フォーム印刷工業会からの報告

関東フォーム印刷工業会（瀬戸会長）

支部主催で資産工学研究所の坂本所長を再度お招きして、ナレッジマネージメントについての勉強会を行なった。

また、恒例になっている一泊泊まりの伊東での理事研修会を行なった。さらに会員各社の設備を有効に使い合おうとの一環として、木万屋さんの設備の見学会を行なった。今日は講演会の後、関東主催の新春懇親会がありますので是非、ご参加下さい。

北海道フォーム印刷工業会（佐藤会長）

北海道としての良いニュースは新幹線の延長が決まったことです。ただ完成は25年後とのことですが、建設や土建業の方々は喜んでいます。

昨年の11月末に毎年行なっているセミナーと忘年会を37名の参加を頂き実施した。１月10日に印刷関連企業の新年会があり、本年は全印工連の全国大会を北海道で行なう予定であるが、道内の会員が年々減少していて参加宿泊者も前回の半数になってしまう。フォーム印刷工業会からは14名の参加があり「フォームさんは非常に元気で仲が良いですね」と言われ、全国大会の手伝いをする予定。

東北フォーム印刷工業会（佐久間会長）

昨年は本当に沢山のご支援を頂きましてありがとうございます。昨日仙台で役員会、講演会、新年会を開催した。今年は６月６日に東北工業会の40周年があるので、実行委員会の設置など具体的な準備を始めている。この関係で例年５月に行なっていた総会を６月に移動し、秋の工場見学会を５月に移動したり、例年とは異なるスケジュールになるが、全員で力を合わせて頑張ろうと役員会で話しあった。

今日公演頂きます「はせがわ」先生のカレンダーも3,600～3,700セット販売することができ、12月末に福島県の動物救護本部に35万円を寄付させて頂きました。今年もまだまだ東北は辛い日々が続くと思いますが、東北会員全体で頑張って行きたいと思います。

中部フォーム印刷工業会（杉山会長）

11月17日にブライター・レイターの山下氏を迎えた研修会を実施し、約50名が参加した。これからの印刷業界における様々な示唆を山下氏から頂いた。12月８日には忘年会を兼ねた懇親会を行なった。今年の理事会は２月からスタートするが、各社が原紙の値上げ等で苦慮している状況の報告があった。

関西フォーム印刷工業会（清水会長）

関西からは大阪市長の選挙も終わり、新しい体制で活性化を図って行く事への期待が高まっている。１月19日に堂島ホテルで講演会と互例会を開催。講演会ではシンガーソングライターの河島翔馬さんをお迎えし、アナウンサーの原田年晴氏とのパワートークショー＆ライブを行ない、「関西は今年こそ元気を出してゆこう」とアピールした。

溝口支部長からは２月16日に開催する業界セミナーの案内があった。今まで以上に全国に向けて、関西の元気さを出そうと活動する「これからのＢＦを考える」とのテーマで、各社がどのように動くべきか、また動かねばならないかについて、意見交流のセミナーを開催する。

最後に櫻井副会長より閉会挨拶があった。

「櫻井副会長挨拶骨子」

本日はご出席の皆さんから貴重なご意見を聴かせて頂いた。是非、全国レベルでの活動をしていきたい。今日の市場調査委員会の報告では、各社の売上が安定的であるとの結果で、これがフォーム業界の強みであるのか。商業印刷での経験では、毎日毎日がゼロからの出発なので、売上が安定的にあることはあり得ない分野。経済産業省のホームページには日本の今後や、経済状況のレポートが様々掲載されているので、是非、見て欲しい。

今後、少子高齢化で繁栄する企業はこれからはない、という前提の基に新しいビジネスを模索して行くことが本当に大切で、小集団活動のように勉強会をきちっとやって行く事が必要だと思う。

ビジネスモデルの変換や、事業構造の改革との言葉が独り歩きしているが、これを実行して成功した会社は日本には一つもなく、非常に難しい。フォーム業界でも次のものに変化していかなければならない。

今年は新しい強みを発揮できる業界にしたいと思う。

次回の平成23年度第９回理事会は
開催日　平成24年３月８日（木）
時　間　午後１時30分より
場　所　日本印刷会館２階　201会議室
を確認して閉会となった。

日本フォーム印刷工業連合会　平成23年度　第９回理事会議事要録

■平成24年３月８日（木）午後１時30分　日本印刷会館２階　201会議室
■出席者（21名）
小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷（正）常任理事 、中村常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、越智（大久保常任理事）代理、佐久間常任理事、杉山常任理事、清水常任理事、灘常任理事、坂下（林常任理事）代理、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、滝本理事、西川監事、吉澤監事、山口（専務理事事務局）

議　題（１）委員会報告
（２）日本印刷産業連合会等関連報告
（３）各フォーム印刷工業会からの報告

議　事　冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

「小谷会長挨拶骨子」

今年の冬は大変寒くて、北陸、東北、北海道では大変雪が多く、京都や東京でも何度か雪に見舞われた。10日程前に九州の大宰府に行ってきたが、例年だと２月25日頃には梅の満開を迎えるが、まだ殆ど咲いていない。あと少しで３月11日を迎えるが、大変な１年間で、特に東北の会員企業の方々は大変な影響を受けられ、この１年間努力したお陰でここまで通常に近づくことができた。また、東北以外でも電気と用紙で、大変な１年であったが、ここで区切りを付けて新年度に向かいたい。

６月には東北工業会の40周年の記念式典、秋には持回り理事会を東北で開催するが、東北への支援というより、日本全体で東北の方々と一緒にやっていきたいと思う。

今日は今年度最期の理事会になり、６月の総会で理事及び役員の正式決定の運びになるが、次回の新年度最初の理事会で候補者内定発表をしたい。

委員会報告

●資材委員会
・２月・３月度用紙事情について報告

●業務委員会
・１月・２月度月次計算について
・Page 2012 出展及び行事報告

●国際委員会
・12月度米国レポートの報告
・日印産連発行PIA Flash Report Summary の報告
・drupa 2012ツアー詳細説明及び参加者状況

●市場調査委員会
・（株）矢野経済研究所・日本M&Aセンター共催セミナーの案内

●技術委員会
・印刷産業に於けるクラウド化について

●環境委員会
・環境優良工場表彰募集案内

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

（１）印刷業界におけるデジタル印刷に関するアンケート調査
（２）印刷図書館財政支援について
（３）SMATRIX 2020発表記念セミナーのご案内
（４）「容器包装のカーボンフットプリント制度の対応」説明会
（５）会社法制見直しに関する意見書について
（６）非意図的にPCBを含有する可能性がある有機顔料について
（７）電気料金値上げについて（東京電力（株）より）

各フォーム印刷工業会からの報告

・関東フォーム印刷工業会報告（瀬戸会長）

１月26日椿山荘で新春講演会の後に関東主催の新年懇親会を開催した。昨年に引き続いて印刷展示会である“Page 2012”に関東会員企業からも参加を頂いた。この展示会は印刷関係の方々が多く参加されるが、ＢＦ製品は非常に特殊なもので、フォーム工連から出展された製品に対して意外感を持たれている。この様な展示会に出展することでＢＦ製品のＰＲの機会になったと思う。また、展示会全体としては入場者が昨年を下回ったようであるが、フォーム工連ブースに訪れ名刺交換をされた方々は昨年以上になった。来年以降も継続して参加したいと思う。

東北フォーム印刷工業会報告（佐久間会長）

６月６日に東北の40周年記念式典を仙台のホテルで開催を予定しているので、２週間に１回位仙台に集まって準備を進めているので、是非、参加をして欲しい。

午後４時からは記念式典、午後５時からは記念講演会、６時15分から懇親会を仙台ウエスティンホテルで開催する。翌日の７日にはゴルフコンペも予定しているので、是非、皆さんのご参加をお願いしたい。

関西フォーム印刷工業会報告（清水会長）

今日配布された業界紙にも掲載されておりますが、２月16日に「ＢＦ業界の現状と課題」と題して基調講演を山口専務理事が行ない、続いて溝口社長と土井顧問も加わって放談会を行なった。当初100名の参加者を予定していたが、正会員の他、製紙メーカーや紙販売店の方々も多数参加され、反響が大きく150名の参加となった。今後もこの様なセミナーを開催して行きたいと思っている。

西中国フォーム印刷工業会報告（灘会長代理）

２月10日に７社（正会員としては５社）から９名が参加して、西中国の新年会を開催した。

今まで西中国は３社の持回りで会長を選出して来たが、高齢化と組織移転等があり、難しい状況が続いている。しかし、少ない会員数にはなっているが、継続して会の維持に勤めていきたい。

中部フォーム印刷工業会報告（杉山会長）

今日は新幹線が止まってしまった関係で、理事会への到着が遅れた。中部地域はまだまだ景気が厳しい状況が続いており、用紙値上げについても各社各様の状況になっている。

最後に瀬戸副会長より閉会挨拶があった。

「瀬戸副会長挨拶骨子」

震災からもうすぐ１年が経過し、先週仙台に行って被災地を訪れたが、海岸に近づくに従って被害の大きさを感じた。１年間たってこの状況を見ていると、改めて被害の悲惨さを思うとともに、まだまだ我々が支援をしなければならない事を感じる。

フォーム業界も集まりの度に厳しい状況の話しか出てこないが、こんな時こそ協力体制を深めて、いざという時のために備えて行きたい。

次回の平成24年度第１回理事会は
開催日　平成24年４月12日（木）
時　間　午後１時30分より
場　所　日本印刷会館２階　201会議室
を確認して閉会となった。

平成24年新春講演会

「芸術は人の心を癒す」を開催

日本フォーム印刷工業連合会の平成24年新春講演会が１月26日、文京区の椿山荘で開かれ、「ドリーム工房☆はせがわ」の、はせがわいさお氏、はせがわ芳見氏、はせがわ祐希氏と（株）芸術造形研究所社長の西田清子氏が講演した。

「スターリィマンの９つの風船」を演題に講演した、はせがわいさお氏は福島県出身の画家。星を象ったスターリィマンというキャラクターを主人公にした作品を描いており、芳見夫人が話を創作、愛娘の祐希さんが朗読する創作発信活動を続けている。今年度東北フォーム印刷工業会が制作した「被災地ふくしまのペットを救おう」卓上カレンダーにも絵を提供した。講演会ではスターリィマンの誕生秘話や東日本大震災の被災地での紙芝居活動などを紹介。日本で珍しいストリートオルガンの演奏に合わせて、はせがわファミリーによる紙芝居を披露した。

西田清子氏

芸術造形研究所の西田清子氏は「芸術は人の心を癒す」をテーマに、臨床美術「アートセラピー」を紹介した。絵を描く行動で脳剛胞を活性化させるもので、認知症の症状改善の他、現在では企業のメンタルヘルスや教育・福祉教育の分野でも採用され始めている。

講演会では同社が開発したオイルパステルを使って、絵葉書を描くワークショップが行われ、参加者が思う色を組み合わせて創作した。

今回の企画では、紙芝居劇やワークショップを通じて、身近にある紙の「豊さ」や「素晴らしさ」に触れることができた。

はせがわ芳見氏、はせがわいさお氏、はせがわ祐希氏

ワークショップの風景

日本印刷技術協会主催

「page 2012」に出展
―今年も会員５社と事務局から展示―

２月８日（水）～２月10日（金）の３日間、サンシャインシティコンベンションセンターTOKYOで開催された“page 2012”に、昨年より規模を少し拡大して出展した。

会員企業からは（株）イセトー、（株）昇寿堂、トッパン・フォームズ（株）、太平洋印刷（株）、三郷コンピュータ印刷（株）の５社と、事務局展示として（株）イクス、（株）ソマード、（株）プラン、（株）和紙のイシカワの４社の協力により、特徴ある各社の製品の展示とソリューションを紹介した。

今回の“page 2012”の入場者数は約６万５千人と昨年より少し下回ったが、昨年以上に名刺交換をされた出展者もあり、大変好評の企画になった。

今回出展された太平洋印刷（株）代表取締役の福武正廣様からは「弊社のような小さな会社が出展をさせて頂き、社員のモチベーションも大いに上がりました。これを機に少しずつ新しい方向を模索して行きたいと思っております」との報告もあり、この展示を機会にして、会員各社が新しいビジネスに結び付く事ができる事を期待している。

関西フォーム印刷工業会主催

放談会「これからのＢＦを考える」を開催

「これからのＢＦを考える」と題した「放談会」を関西フォーム印刷工業会（清水順市会長）主催で２月16日、大阪・本町のJPビルで開かれ、定員100人を大きく上回る150人が聴講した。当日は清水順市会長のあいさつに続いて、日本フォーム工連専務理事の山口氏が基調講演を行った。

基調講演では「劇的に変化するBF市場の動向」が、ここ20年間の市場規模の変遷、デジタル技術を使ったビジネスモデル、データプリントの付加価値サービスなど、具体的な事例や指標を示しながら説き明かされた。さらに、日本におけるメディア状況、米国市場の現状、そこにおける新しいビジネスモデルの

紹介などを明らかにした上で、「今や、業態変革の段階ではなく、新しいビジネスを立ち上げるという起業の段階に来ている」と述べ、今後に向けた展望を示した。

このあと、「放談会」に移り、溝口剛司（レスター工業(株)社長）、土井重寛（(株)イセトー技術顧問）、基調講演を行った山口氏の３氏によるディスカッションが行われた。そこでは、AR（仮想現実）技術を使ったビジネス展開を始め、最新のデジタル印刷技術、人材育成、ＢＦ製品の動向など、幅広いテーマにわたって活発な意見が交わされた。

技術セミナー

「印刷産業におけるクラウド化の影響について」を開催

技術委員会（丹羽喜一委員長）は３月27日、「印刷産業におけるクラウド化の影響は」をテーマに、日本印刷会館２階会議室に約80名が参加され、セミナーを開催した。総務省も行政コストの大幅削減や、業務の標準化と電子化の早期立ち上げのために、自治体クラウドによるIT化の推進を行なっており、事務の革新とともに歩んできた、フォーム業界にとって大きな影響があると予測される。

そこで、(株)クラウドジャパンの佐藤敏郎氏を講師に迎え、クラウド社会における様々な変化について語って頂いた。

世界では８億人が利用しているフェイスブックは、インターネット利用の3/4のシェアを占めているなどソーシャル革命が起きている。タブレット端末の普及などを引き金に「ポストPC時代」の到来が直近で、「これまでの主流だったクライアント・サーバ型PCに代わり、クラウドコンピューターの時代」がきている。日本でも急速に普及している高速無線LANのWi-Fiなど、クラウドコンピューターを利用する環境が整ってきている。

クラウドのメリットは「PCの故障、盗難、災害に遭ってもデータが護られ、社内外、国内外問わずデータにアクセスできる。さらに情報漏洩の危険がなく、サーバーも管理も不要になる。これによって在宅勤務や遠隔勤務が実現しやすくなる」と話し、まさに事務革新である。

身近なクラウドの活用例として、グーグル社の「Google Apps for Business」やマイクロソフト社の「Office 365」を、月額600円程度の低料金で利用できるクラウドとして紹介。「ポストPC時代になり、PCやOSが重要でなくなった。印刷業界をはじめ、さまざまな業界でパラダイムシフトが起きてくる。既存のビジネスにこだわることなく、チャンスとして環境対応業としてビジネスを変えていく必要がある」と述べた。

我々の業界も、自社が何業を定義とするかを見極める時期にきているようである。

関東フォーム印刷工業会　平成24年新懇親会を開催

１月26日、椿山荘で開催された講演会終了後、関東フォーム印刷工業会（瀬戸良教会長）は、平成24年新春懇親会を会員ならびに来賓、特別会員など約200人が出席し開催した。

高橋聡氏

日本フォーム工連
小谷達雄会長

開会にあたり関東フォーム印刷工業会の瀬戸良教会長があいさつし、「昨年の大震災では、日本人が心を１つにして小さなものでも分かち合う絆が世界中から評価された。業界のパイは小さくなっていくが、同じ仕事をする仲間として適正利益を分かち合い、苦しい時を乗り越えて、次世代へ引き継ぎたい。暗いニュースばかりの毎日だが、干支の辰にあやかり、上昇志向でいこう」と、新しい年の進むべき道を示した。

来賓として出席頂いた経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課課長補佐の高橋聡氏からは「時代の変化にいち早く対応しながら新たな価値を創造し、社会へ貢献してきたのがフォーム印刷業界、今年も創造力を発揮して難局を乗り越えてほしい」とエールを頂いた。

さらに、日本フォーム印刷工業連合会の小谷達雄会長は「関東フォーム印刷工業会の元気が、業界全体の明るさをつくる」と期待を述べ、乾杯した。

祝宴では和やかな雰囲気の中、ビンゴゲームなどを大いに楽しみ親睦を深めた。

関西フォーム印刷工業会　平成24年新年互礼会を開催

関西フォーム印刷工業会（清水順市会長）では、平成24年１月19日（木）、大阪堂島ホテルにて新年互礼会を開催し、会員、特別会員、合計90名が参加した。

講演会では、講師にシンガーソングライターの河島翔馬さんをお迎えし、ラジオ大阪のアナウンサー原田年晴さんをトークパートナーとして、「パワートークショー＆ライブ ～関西 今年こそ、元気出してゆこう～」が行われた。

河島翔馬さんは、2001年４月にお亡くなりになられた河島英五さんのご長男。ライブでは、ご自身の曲はもちろん、河島英五さんの代表曲「野風増（のふうぞ）」など５曲を熱唱。曲の合間には、原田さんの絶妙なトークのなか、河島翔馬さんの

新年互礼会の風景

活動、人柄、そして、河島英五さんのエピソードなどが語られるなど、盛りだくさんの内容で、参加者全員時間がたつのを忘れるほどだった。

清水会長の「絆で、関西が一丸となってがんばろう」と掛け声で始まったパーティには、河島さんと原田さんも飛び入り参加し、終始、和やかなムードだった。最後は、全員が輪になって、恒例の「おててつないで」の大合唱で幕をとじた。

東北フォーム印刷工業会　平成24年新春懇親会・講演会を開催

東北フォーム印刷工業会（佐久間信幸会長）は１月25日、仙台市ホテル白萩にて役員会、新春講演会、及び新年会を開催した。

役員会では平成24年度定時総会に併せて、創立40周年記念式典を６月６日（水）に仙台市にて開催することを決定した。

理事会後開催した新春講演会には20名が参加し、「健康は歩いてやってくる」と題し、仙台医健専門学校副校長の高橋英子氏が講演され、日本ノルディックフィットネス協会公認のインストラクターでもある高橋氏に、歩くことと健康であることの密接な関係について聴いた。日本人の平均寿命は戦後約60年で30年以上延びているが、健康で自立した生活をできる年数（健康寿命）は限られている。歩行時間の長い人の方が歩かない人より、健康寿命が長くなり、死亡率も低くなる。正しい姿

講師　高橋英子先生

勢で正しく歩くことにより杖がいらなくなり、見た目も若返った老人や、自身のダイエットの成功など事例を交えながら話された。

最後に正しい立ち方や歩き方を指導していただき、参加者は真剣に先生の話に耳を傾け、実際に歩き方を実践した。

その後開催された新年会では、21名が参加して、情報交換をしながら楽しい懇親のひとときを過ごした。

九州フォーム印刷工業会　平成23年度２月理事会及び懇親会を開催

九州フォーム印刷工業会（和田秀一郎会長）は、２月24日（金）福岡にて、平成23年度２月度理事会、及び懇親会を会員並びに特別会員の18社から20名の方々にお集まり頂き、開催した。

理事会に於いては、和田会長より日本フォーム印刷工業連合会の理事会にて報告された米国レポートや、用紙事情等の説明があり、九州フォーム印刷工業会の運営についても協議された。

理事会の終了後に開催した懇親会には、特別会員の皆様にも参加頂き、新年を迎えおおいに懇親を深めることができた。最後に、和田会長より平成24年度の定期総会を５月に鹿児島で行なうとの案内があり、閉会した。

懇親会の風景

国際委員会
■北米印刷事情レポート（2012年1月～３月）

デジタルプリントは印刷業界を救えるか

Indigoが1993年にフルカラーデジタルプレスを発表したが、印刷業界はデジタルプリントを懐疑的に見ていた。デジタルプリントのアプリケーションは何か、オフセットなど従来印刷の脅威になるのかなどが議論され、結論は先送りされていった。

そして現在、従来のアナログ印刷がデジタルメディアの猛撃を受け、印刷業界はデジタルプリントを脅威としてではなく、むしろ助け舟として期待しているように見える。しかし、本当にアナログ印刷がデジタルプリントに変わっていくのか疑問が拭い切れない。

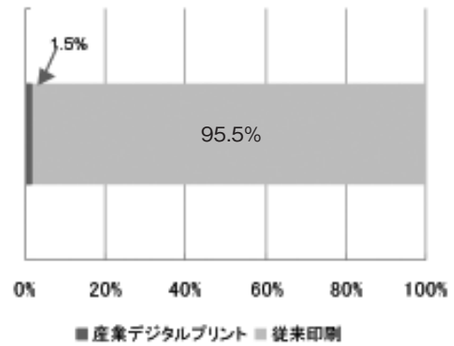
そこで、IT Strategyは「どのアプリケーションが、どの時点で、アナログ印刷からデジタルプリントに持続的に変わっていくか」を2010年に調査した。８ヶ月にわたり、印刷に携わる業者、専門家、顧客など900人に対してメールによるアンケートやインタビューを実施。対象となったアプリケーションは、書籍、カタログ、DM、ラベル、販促資料、新聞、パッケージなど12項目に渡っている。

2009年の北米においての全印刷物の比率を見ると、印刷されている全てのドキュメント数は、約１兆4670億ページである。しかし、産業デジタルプリントの比率はまだ1.5%にすぎない。

しかし、IT Strategyの調査のこのグラフを見る時、注意しなくてはならない事は、成長率を示しているだけで、品種毎の数量が判らないことである。カートンの成長率が年間61%も成長しているのは、2009年時点のカートン製品のデジタルプリントの数量が小さいからである。一方、DMについて見ると4%と低成長なのは、すでにDM製品についてはデジタル化が進んでいて、分母が極めて大きいからである。

Infotrendの調査は2010年と2015年を取上げて、Ａ４サイズのインプレッション数を比較して予測している。

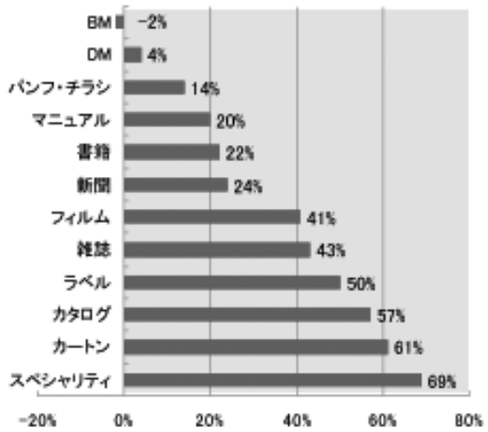
2000 年度の印刷物比率



出典：IT trategy

産業用デジタルプリンは2014年までの年間成長率は11.5%。2014年には約330億ページのドキュメントがデジタルプリントで生産される。
品種別成長率の内訳は左記のグラフの通りである。

北米産業デジタルプリント
品種別累積年間成長率（2009 ～ 2014 年）

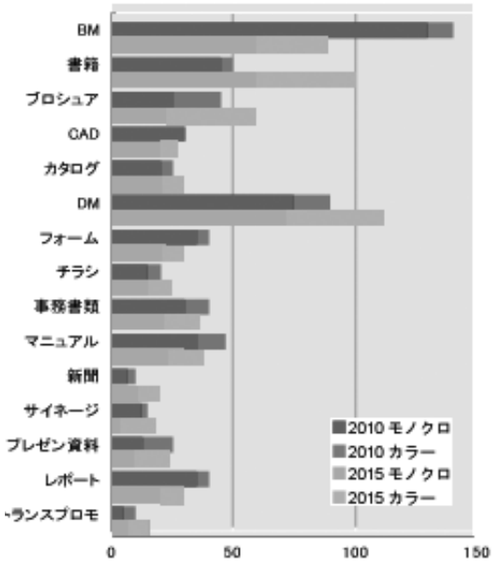


出典：IT trategy

2010年度のデジタルプリントのトップ３品種は、BM、DM、書籍であるが、2015年でもその構図は変わらない。ただ、BMは約1,350億インプレッションから約800億インプレッションまで出力数を大幅に落とし、DPSを主力ビジネスとしている企業にとっては憂慮すべき予想と言える。

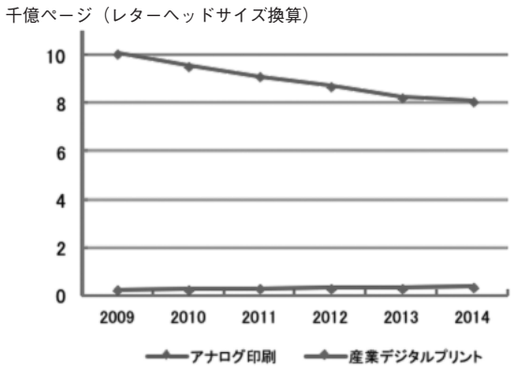
一方、書籍、DM、ブロシュアなどは共々伸びを予測している。

米国品種別デジタルプリント出力数
（2010 年と 2015 年の比較）



単位：10 億インプレッション（A4）

北米印刷物規模推移（2009 ～ 2014 年）



出典：IT Strategy

印刷業界の関係者の多くは、アナログ印刷がデジタルプリントに置き換わっていくというが、左下のグラフはデジタルプリントが印刷業界の救世主とは成り得ない事を示している。

アナログ印刷は2014年まで毎年5％減少していく。これを産業用デジタルプリントが穴埋めするためには、毎年200％以上成長しなくてはならなく、11.5％成長では話にならない。アナログ印刷が毎年5％減少していく予想は確かに厳しいが、例え緩やかにしたとしても、産業用デジタルプリントがそれを補っていけない事は明白のように思う。

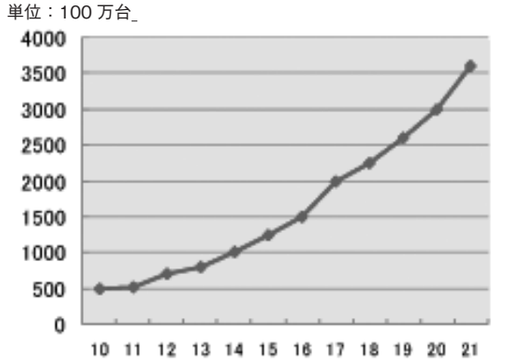
唯一、産業用デジタルプリントがアナログ印刷を侵食する可能性を秘めているアプリケーションはDMと書籍である。

それでは、アナログ印刷が産業用デジタルプリントと関係なく減少していく先は何処であろうか。IT Strategyでは、小型プリンター（卓上プリンター、事務用ドナープリンター、MFPなど）とディスプレイ（PC、スマートホン、タブレットなど）に流出していくと予想している。特に、アナログ印刷で生産されているカタログや新聞などは、産業用デジタルプリントに奪われるのではなく、消費者の情報消費行動の変化により、ディスプレーに流れて行く。

MediaIDEAの調査によると、電子リーダー端末の急速な増加により、雑誌用紙の需要は2010年～ 2020年の間47％減少し、100万トン規模まで落ちて行くと予測し、産業用デジタルプリントとして有望視されている書籍さえ、なんと52％減少（2020年では55万トン）するという。

このような予想が本当であるなら、多くの印刷業者が産業用デジタルプリンターを導入したなら、小さなパイを奪い合う過当競争になってしまう事は明白である。

全世界電子リーダー端末（2010 ～ 2021 年）



出典：MedialDEA

パラダイムシフトの時代、リスクをとらないことが最大のリスクと言われている。従来の沿線上にない印刷ビジネスを越えた未踏の地に進出した方が、最終的に良い結果をもたらすのかもしれない。

印刷産業にとって難しい時代を迎えてしまった。

米国郵便事業のモデルは成り立つのか

12月５日に米郵便事業が、配送センター250箇所と郵便局2,000箇所を閉鎖し、28,000人の従業員を解雇することを発表した。これにより、年間30億ドルのコスト削減を目指す。加えて、土曜日配達を止めることも検討中。

米国の第一種郵便物は郵便事業の売り上げの57％、利益の45％とを占めるが、その配達量は、ここ５年間25％減少している。また、小包とバルクメールは、リーマンショック後に若干回復基調にあるが、その穴埋めにはなっていない。

打撃が予想されるＢＭとＤＭ

現在、米国の郵便事業がビジネスとして成り立っていくのか大きな議論になっており、郵便事業を利用しているDPSやDM業界では危機感を募らせている。

米郵便事業は、発送センターを250箇所閉鎖することにより、残ったセンターの稼働率を上げていく計画。しかし、ローカル地域内の翌日配達が犠牲になり、２日以上の配達期間を要することになる。第一種郵便の63％は、企業から郵送する請求書と通知書、そして受領した個人が支払う小切手の郵送で占められる。

配達期間が１～３日から２～４日になると、企業からの通知書が電子配信に変更されることを確実に加速させる。支払いの小切手の到着の遅れにより代金回収が遅くなり、キャッシュフローが低下する。また、請求書の到着が遅くなれば、支払いにまつわる問題などの対応で、カスタマーサービスコストが上がってしまう。さらに、確定申告の時期や四半期毎の通知物郵送などのピーク時には、さらなる遅れが予想され、企業にとって郵便サービスは不便なものとなる。

さらに、導入検討を行なっている土曜日配達が廃止されれば、最悪の場合水曜日に発送した請求書が月曜日に到着することになる。

土曜日配達停止はBMだけではなくDMにも悪影響を及ぼす。DMは金曜日と土曜日配達を目指して配送され、ＤＭを受け取った消費者が週末の買物に利用している。しかし、土曜日配達がなくなるとDMが月曜日に届いてしまうことになる。これは、レスポンス率の低下に直結し、ＤＭはソーシャルメディアやメールなど、他のメディアに移行する切っ掛けになってしまう。

去年は、印刷業界、郵便関連事業、マーケティング企業など1,000の非営利団体や、フォーチュン500企業から構成されるAffordable Mail Allianceが郵便料金の値上げを断固反対したが、郵便料金値上げよりサービス低下の方が、悪影響を及ぼしてしまうことがわかってきたため、逆に値上げを提案する会員もではじめている。ただ、郵便料金を値上げする

と、企業にとってコスト増になるため悪影響はさけられない。

打つ手のない八方塞の状態になっているが、AMAが米国郵便事業のリストラに神経質になっている理由は、カナダの郵便事業の前例があるからである。

カナダの郵便事業のリストラ

カナダでは、65年から97年にかけ郵便事業が19回のストライキを起こそうとしたが、企業の代金回収や消費者の年金小切手の受け取りに大きな支障をきたすため、企業と国民から政府に強い圧力がかかり、７回のストライキを強制的に阻止させた。しかし、2011年6月のストライキでは、政府の強制的な動きはなく、企業も国民もまったく関心を持たなかった。

カナダでは、もはや郵便事業を不可欠なサービスと見なさなくなり、依存度が下がっている証である。今カナダでは、年金給付の91％は電子振込みとなり、95％が電子決済（Automated Clearing House）されている。

米国に先駆けてカナダは郵便事業のリストラを断行し、その結果、利便性が低下し、不のスパイラル連鎖を招いてしまった。土曜日配達を廃止し、さらに1985年以降に新築された家屋への配達を停止、街角に緑色のメールボックスを設けるシステムに変えた。そのため、企業から送られる請求書や通知物の電子化が加速し、郵便箱を開けても入っているのはDMのみになった。

郵便物はほとんどが読まれず、家に持ちこまれる前に、ゴミ箱へ捨てられてしまっている。家から離れた場所にある街角のメールボックスを、毎日掃除に行くようなものになった。

何のための郵便事業かと、その存在意義が疑問視されつつある。

カナダCarlton大学のLee教授は、カナダの郵便事業は、もはやビジネスモデルとして成り立っていない。カナダ国民の10％にとっては郵便事業は不可欠なものではあるが、残りの90％にとっては無くても生活に支障をきたしていない。しかし、郵便事業のユニバーサルサービスを維持するために、人口は増加傾向にあるが取扱量が減少する中、インフラを整えなくてはならないジレンマを抱えている。

郵便事業のユニバーサルサービスが廃止されると、UPSやFeDexを使うことになり、配送料金が現状の1.60ドルから4.00ドルに跳ね上がってしまう。このように人々に欠かせない郵便物の配送事業を、DMなどのバルクメールによって支えているモデルは、健康的なものではないとLee教授は指摘している。

そもそも郵便事業が国営となったのは、英国の王室が国民の革命を恐れて、通信手段を監視するため、ロイヤルメールとして国営化したのが発端。その後、政府が国民の対話を監視する手段とした国営モデルが、英国から世界へ広がっていった。それが今、ユニバーサルサービスの議論に入れ替わった。

カナダも米国もユニバーサルサービスが理由で民営化が進んでいない。

民営化で成功しているドイツポストのように、様々なサービスを付加しようとすると、民間企業との不公平が発生すると強い抵抗にあってサービスの拡大ができない。そこで、事業の合理化により規模を縮小し、サービスを削減するしかない。サービスをカットすれば不便を招き、利用が減少していくというネガティブスパイラルに陥ってしまう。米国とカナダの郵便事業は、このままだと破綻することは間違いないとLee教授は危惧する。

郵便事業はインフラビジネスである。インフラが衰退すれば、その周辺のビジネスも衰退は避けられない。

長期的にみると日本の郵便事業も抜本的改革は避けられそうにない。

米国郵便事業についてのMailing Systems Technologies誌のアンケート調査

郵便関連の業界誌（Mailing Systems Technologies）が行った米国郵便事業に関するアンケート調査を紹介する。調査対象者は米国大手企業のメールセンターのマネージャーとDPS事業者である。

「郵便事業の民営化に賛成するか」についての問いに対しては、53％が賛成で、47％が反対。昨年の調査では、46％が賛成し、54％が反対であったが、ほぼ意見が二分している。

また、「土曜日配達停止を支持するか」については、80％が支持しているが、このグラフでは33％が「配達に影響を受けるが支持する」、また、47％は「配達に影響をうけないため支持する」との回答結果。

関係者自らが郵便事業の使命を放棄してしまっているような集計である。

「景気が悪化し、企業がコミュニケーションを電子化する中、米国郵便事業は適切な対応をとっているか」の問いに対しては、70％が適切な対応をとっていると回答している。

このアンケート調査は米国大手企業のメールセンターのマネージャーとDPS事業者からの回答であるので、少しバイアスが掛って仕舞っているように思えてならない。

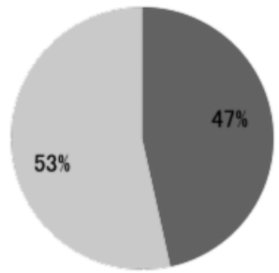
郵便事業に対して使用者視点が抜け落ちているように感じる。

Graph Expoでの注目事項

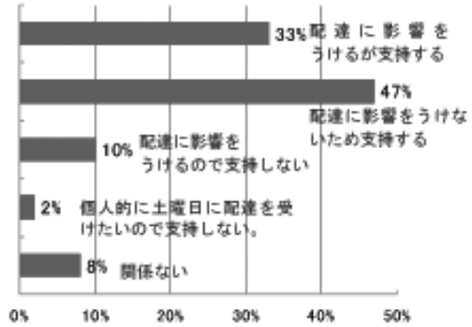
2011年９月11日～14日、シカゴでGraph Expoが開催され、来場者数は20,451人。前年の2010年に比べると7％アップし、出展者数も増加して491社になった。

この展示会では多くの産業用プリンターが紹介されているが、ワークフロー、生産管理などITの活用が、印刷業者の競争力維持に欠かせなくなっているので紹介する。

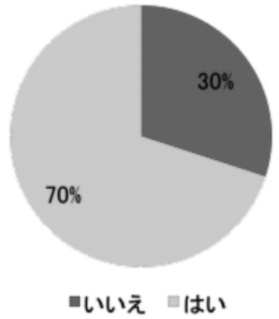
米国郵便事業の民営化に賛成するか



土曜日配達停止を支持するか



米国郵便事業は景気と電子化に対して適切な対応をとっているか

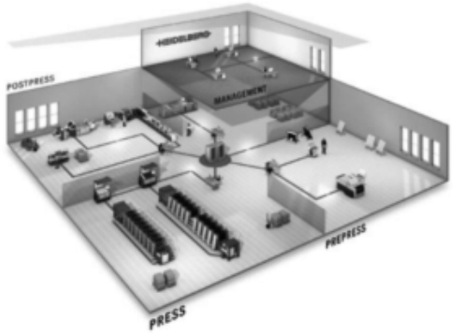


生産管理システムとマルチメディア

Graph Expoでは、様々な生産管理やマーケッティング関連のソフトウェアが展示されていた。

例えば、HeidelbergのPrintnectは、カスタ

Heidelberg の Printnect



展示場は QR コードだらけ

マーインタフェースとなるPageflex（W2P）から、基幹システムのMISまで包括的に連携して、印刷企業のあるべき姿をアピールしていた。

このような包括的システムは、EFI、Hiflex、Kodak、Oce、HP、Xeroxなどからも提唱されていた。どのシステムを導入するかの判断は、どのような設備をもっているのか、プロセスのどの部分を自動化したいかなど包括的な視点が必要だ。今、印刷業界で問題になっているのが、これらのシステムの多くが大手印刷業者向けに開発されていることである。

中小の印刷業者やディストリビュータは、大手ほどの大掛かりなシステムを必要としていないし、社内のプロセスを包括的には把握し、システムを導入するためのITスキルも持っていない。印刷企業がパッケージソフトを購入すると、プロセスに合わないため、カスタム化が発生したり、メンテナンスができなかったりして、多くの場合、高い買い物になってしまう。ソフトありきで、本来改善させるべきプロセスの方を変更せざるをえないこともある。

今回のGraph ExpoではSaaSを提供するソフトベンダーが増えた。SaaSは売り切りではなく印刷企業のニーズにあった様々なレベルの機能を提供するために、中小の印刷業者やディストリビュータにとって導入しやすい。SaaSを検討する際のポイントは、高度な機能、接続性、汎用性というよりも、どのくらい印刷企業各社のプロセスにマッチしているかが重要だという。SaaSは、一度導入するとプロバイダに依存することになるので、サービスが長期的かつ安定的に提供されるかを見極める必要がある。

印刷業界のIT化のもうひとつのテーマはマルチメディアである。印刷と他のメディアを合わせたソリューションを至る所で展示されていた。

XMpieなどマルチメディアマーケッティングからウェブサービスまで幅広い機能を提供するベンダーから、ウェブサイトを構築するための簡単なソフトまでその幅は広い。

今年の会場で一番目立ったマルチメディア関連技といえば、QRコードであった。（QRコードは、米国で2011年の夏あたりから話題になりはじめて、印刷業界だけではなくマーケターの間でも話題になっている。）

ボーダーレス化する印刷

Graph Expoで確認されたもう一つの大きな流れは業界のボーダーレス化である。デジタルプリントの浸透により、特に印刷とメーリングの境がなくなってきている。印刷業者が積極的にメーリング設備を導入しなければ、仕事をメールハウスに奪われてしまうだろう。Pitney Bowes社がHPの新型プリンターを扱うようになったことは、その流れを顕著に表している。印刷だけではなく印刷と隣り合わせになっている領域の周辺機能を取り込むことで、印刷企業の成長の余地が残されていると思う。

プリントマネージメントサービス

周辺領域への拡大として、ドキュメント・プリントマネージメントサービスがある。Graph Expoでは機械ベンダーまでもが、そのコンセプトを提唱している。

Xerox社は昔からドキュメント・プリントマネージメントを提唱してきたが、2010年にAffiliated Computer Serviceを買収したことにより、その色彩をいっそう濃くしたと言える。

メーリング設備を提供するKernもXeroxに習って、EDGEというドキュメント・メーリングマネージメントプログラム、コンサルティング、そしてSaaSを掛け合わせて提供しはじめた。

コニカミノルタもオフセット印刷とデジタルプリントの融合をテーマにドキュメントマネージメントコンサルティングを提供している。

このように、ドキュメント・プリントマネージメントを鍵に、他業種を含め、様々なプレイヤがこの領域に参入してくることが予想され、従来の印刷企業やディストリビュータの主戦場は拡大していくであろう。

Graph Expoを通して見る印刷の未来

今回の展示会を見て未来をどのように予測できるであろうか。

確実に言えることは、新しい市場や技術に拡大していくためには、パートナーシップを組むべきことである。従来、印刷業界でパートナーシップというと、親元業者と下請け業者との関係を意味することが多かった。しかし、これからは情報、人材、資本を共有することが、新しいパートナーシップ形態になって行くと思う。

今回のGraph Expoでは新しいパートナーシップとして、機械メーカーやソフトウェアプロバイダーの間で形成され展示している。これに習って、印刷業界の新たなパートナーシップの姿を形成することができるように思う。

Web to Print (W2P)

印刷物の受発注や生産で、W2Pが今後主流になって行くことは間違いない。一般消費者や特定の企業に向けた印刷物のデザインテンプレートをウェブに掲載して、顧客が容易にパーソナル化や発注をできるようになる。ウェブで受けたプリントデータは、IT技術でグループ化や面付けを自動処理したものを、ギャング印刷するといったプロセスフローになる。このようなフロントエンドのIT技術が印刷業者の競争力を左右する大きな要因になってくる。

鍵は自動化、生産性、技術の統合

印刷業界の多くの企業は、自分の得意とする分野を形成し、商売してきた。それが厳しくなってきたために、周辺事業へ拡大しようとしている。

しかし、他の分野へ進出さえすれば、業績が改善するというわけではない。肝要なのは、事業の土台となるプロセスのワークフローがオートメーション化されているか、機器の生産性が改善されているか、技術が適切に統合されているかである。それさえしっかり押さえていれば、得意分野に特化し続けても競争力を維持していくことができるはずである。

Graph Expo 2011は、印刷業者が今日必要としている課題のソリューションを見つける宝庫であったということができる。

株式会社ゆうちょ銀行から、フォーム印刷を行っている企業のみなさまへのお願いが届きましたので、お知らせします。

ゆうちょ銀行専用払込用紙作成に関する印刷の依頼・相談があった場合のお願い

ゆうちょ銀行から、フォーム印刷を行っている印刷会社のみなさまに、弊行の送金サービスの用紙の印刷に関するお願いです。ご一読を賜りますようお願い申し上げます。

弊行の送金サービスのひとつである「通常払込み※」につきましては、専用用紙である「振替払込書」を独自に作成することができます。

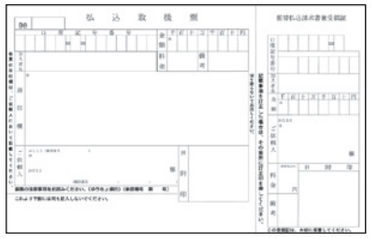
「振替払込書」の作成を希望されるお客さまから、貴社に印刷の依頼や相談がありました際は、**『振替払込書を独自で作成する際は、事前にゆうちょ銀行の承認が必要である』**ことをご案内くださいますようお願い申し上げます。

※ 「通常払込み」とは専用用紙を使用し、ゆうちょ銀行･郵便局の窓口やＡＴＭで安価に送金できるサービスとして、弊行の振替口座をお持ちの多くのお客さまにご利用いただいております。

～ 承認手続きについて ～

- 「振替払込書」には、作成基準を設けています。
- 「作成基準が守られているか」「窓口やＡＴＭで内容を読み取ることができるか」を確認します。
- 未承認のまま作成・印刷を行い、利用された場合、窓口やＡＴＭで読み取ることができず、送金できないことがあります。

【振替払込書の見本】



なお、「振替払込書」の承認は、弊行の貯金事務センター（全国１１箇所）で行っておりますので、作成を希望されるお客さまの振替口座の番号に応じて、各貯金事務センターの電話番号をお知らせください。

※ 承認した払込書等の様式を変更する場合は、新たに申請が必要です。

【承認に関する各貯金事務センターの連絡先】 平成 24 年 1 月末現在

貯金事務センター名	電　話　番　号	貯金事務センター番号※
小樽貯金事務センター	(0134) 33-2218	26、27、28
仙台貯金事務センター	(022) 267-8210	21、22、23、24、25
横浜貯金事務センター	(045) 945-8152	02、04
東京貯金事務センター	一般の払込書 (048) 600-3512 上 記 以 外 (048) 600-3564	01、03
長野貯金事務センター	(026) 233-5411	05、06
金沢貯金事務センター	(076) 231-4201	07
名古屋貯金事務センター	(052) 963-3809	08
大阪貯金事務センター	(06) 6764-5945	09、10、11
広島貯金事務センター	(082) 261-9484	12、13、14、15
徳島貯金事務センター	(088) 626-5922	16
福岡貯金事務センター	(092) 721-9859	17、18、19、20

※ 貯金事務センター番号とは、振替口座の最初の５桁のうち２桁目と３桁目の番号です。
例）「口座番号:００２５０-３-＊＊＊＊＊」の場合は、「０２」を受け持つ貯金事務センターは横浜貯金事務センターです。

ご利用までの流れ （ご参考）

通常払込みで使用する「振替払込書」を独自で作成・印刷されるお客さま（加入者）は、次の手続きが必要です。

※ 次の流れは、一般の払込用紙の作成時のものです。
ＯＣＲデータの提供を行うサービス（ＭＴサービス等）の利用をご検討の場合は、データ授受のための環境整備、整合性試験等が必要となり、日数や流れが異なりますので、東京貯金事務センターにご相談ください。

○作成・印刷を希望
振替払込書の作成・印刷を希望される場合、お客さまの振替口座を受け持つ貯金事務センターにご連絡ください。「振替払込書作成基準」をお送りいたします。

↓

1　振替払込書の見本の確認
次の書類をお客さまの振替口座を受け持つ貯金事務センターへご提出ください。
振替払込書の様式が当行のシステムで正常に読み取れるか等を確認いたします。
■「振替払込書用紙作成申請書」
■「振替払込書」の見本
（振替払込書作成基準により作成）
※確認の結果、不備があった場合は修正した見本を再度提出していただきます。
※お客さまの振替口座を受け持つ貯金事務センターが複数あるときは、「振替払込書用紙作成申請書（包括用）」を１箇所の貯金事務センターにご提出していただくこともできます。

↓

2　仮承認番号のお知らせ
見本を正常に読み取ることができた場合、仮承認番号を「仮承認のお知らせ」によりお送りします。

↓

3　振替払込書見本の再確認
承認番号を印刷した振替払込書の見本を、お客さまの振替口座を受け持つ貯金事務センターへご提出ください。最終確認をいたします。

↓

4　承認
最終確認終了後、「承認のお知らせ」をお送りします。

↓

5　ご利用の開始
振替払込書を印刷していただき、ご払込人さま等へお送りください。

1か月前 → 数週間前

※ ご利用開始までの期間は、標準的な目安です。申請書類の提出状況や、提出された見本の読み取りが正常にできない場合は、さらに日数がかかりますのでご了承ください。

出展案内

■「JP2012情報・印刷産業展」に関西フォーム印刷工業会と企画参加各社が共同出展

今年で36回目を迎える「JP 2012 情報・印刷産業展」が、６月14日（木）から16日（土）まで大阪インテック３号館で開催されます。今年の展示会では、第１に「商談の場」、第２に「ビジネスモデル発見の場」、第３に「利用価値発見の場」の「３つの場」の提供を基本にしています。

今回、日本フォーム印刷工業連合会では、関西フォーム印刷工業会と、各社の協力を頂き、特徴ある商品の紹介や、今後のビジネス展開に必要とする情報を「JP 2012 情報・印刷産業展」にて展示致します。

関西フォーム印刷工業会会員企業
- 内外カーボンインキ株式会社
- レスター工業株式会社
- 野崎工業株式会社

事務局企画参加各社
- 株式会社ソマード
- 株式会社プラン
- サイバーネットシステム株式会社

NPiフォーム NEXT-IJ

NIPPON PAPER INDUSTRIES

次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。
当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性（耐水性、高発色性）を付与し、新たにラインアップいたしました。

■NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/㎡)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。

NEXT-IJ 品質概要

日本製紙株式会社 印刷・情報用紙営業本部 情報用紙部
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel.（03）6665-1042

MITSUBISHI PAPER MILLS LIMITED

21世紀の情報記録をサポートします。

三菱情報記録用紙

三菱NCR紙 スーパー ▯三菱IJフォーム用紙 ▯DFカラーM・G
▯ダイヤフォーム ▯ダイヤメールシリーズ ▯OCR用紙 ▯感熱紙

三菱製紙株式会社
洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎03(3213)3732
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

三菱製紙販売株式会社
本店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341
大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561
東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

メロベル製（フランス）テンションコントロールシステム

パウダブレーキ・クラッチ・デジタルコントローラー

MEROBEL

パウダーブレーキ・クラッチ

- 2ローター+1層エアーギャップのシンプルな構造による優れたパウダー安定性
- 優れたパウダー安定性により、スムーズでリニアな初期動作が可能
- 垂直方向軸に適用可能（シャフトなしタイプ）
- 0.2Nm～1000Nm トルクまで、そして5段階の放熱レベルを提供出来る幅広いラインアップ
- 高いコストパフォーマンス

大阪本社 TEL 0725-44-9930 / 東京オフィス TEL 03-5798-7805
e-mail: inquiry@bstjapan.com URL: http://bstjapan.com

BST ビーエスティ日本株式会社